【単元計画】

１次　被災写真や新聞記事を見る

２次　家族や親戚に水害時の話を聞く

３次　被災箇所を見学し、被災経験者から話を聞く

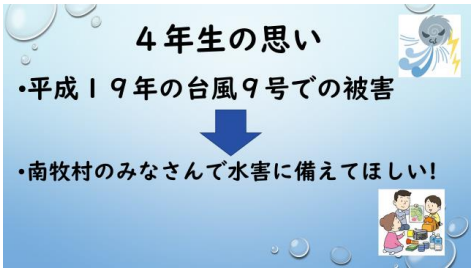
４次　聞き取り内容から、自分たちにできることを考える

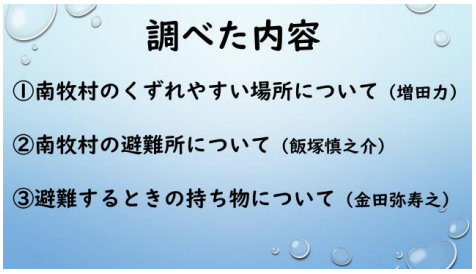
５次　まとめたことを発表する（南牧テレビを通して、村中に発信する）

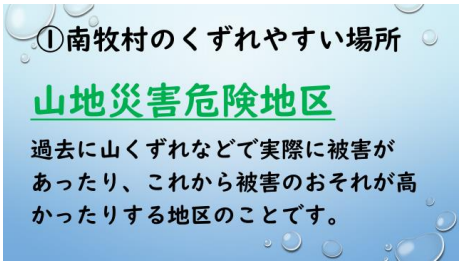
被災者への聞き取り

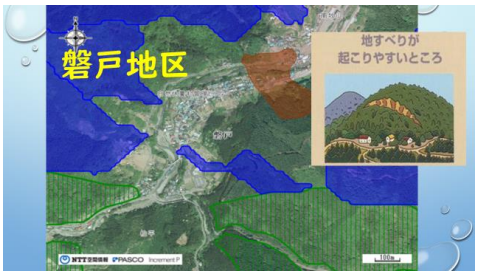
非常食の試食

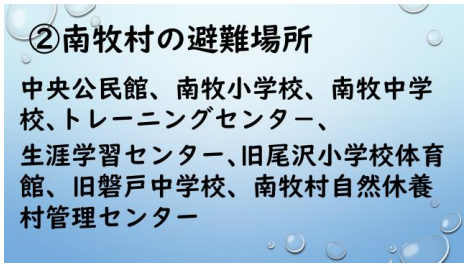
【児童がまとめた作品】

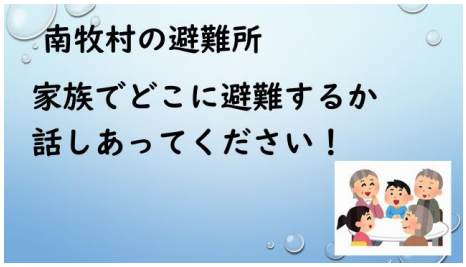


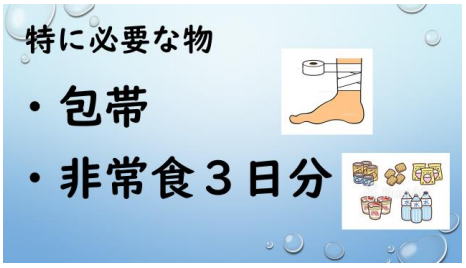


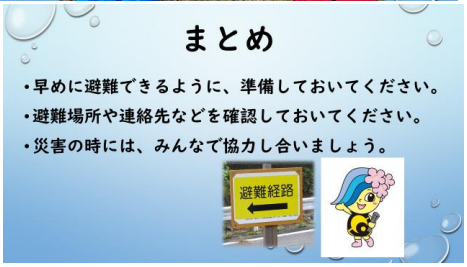












・4 年生の児童は、南牧テレビを通して、自分たちで作成したパワーポイントの資料を使いながら、自分たちの言葉で発信する。

４．本実践の成果と課題について

【成果】

・予告なしの休み時間の避難訓練や、小中合同の登校時刻での避難訓練は、今までに実施していない時間帯での訓練であり危機感をもって実施できた。また、児童がそれぞれの場所で過ごしている時間帯に訓練したことで、教師や大人の指示を待つのではなく、自分で考え判断し行動しなければならないことを体得できた。

・避難訓練において丁寧な事後指導を行うことで、児童は、様々な場面を具体的に想定して、自分で考え自分の命を守るという意識を高めることができた。

・起震車や地震ＶＲ体験を通して、大きな地震が起きた直後には何もできず、生き延びるためには頭を守ることが一番大切であると確認することができた。

・総合的な学習の時間の学びでは、当該学年の４年生は、実際に地域に出かけて見学したり、話を聞いたりすることで、過去の災害を自分ごととして考え、災害に備えて自分たちができることを全校児童や地域に発信できた。発信の受け手は、児童が自分たちの言葉で語る様子を見て、自然災害をより身近なものとして捉え、備えに対する意識を高められた。南牧テレビ（地域のケーブルテレビ）を活用し発信したことで、村全体への呼びかけにもなった。

・避難訓練の事後指導の場面では、金井教授に直接子どもたちを指導していただき、教職員は、その様子を参観した。訓練をした後の事後指導（振り返り）の大切さと、その指導のあり方を学び、防災意識や指導力を高めることができた。

・専門家の方の講演や助言・指導をしていただくことで、防災教育に対する認識を確認できた。自然災害から自分の命を守るという教育を推進し、危機に際し、その事態を「危機と認識できる感性」をもつ子どもたちを育成できるよう指導にあたらなければならないという共通理解ができた。

・小中合同の避難訓練や体験学習、研修を行うことで、村内児童・生徒、教職員全員の防災に対する意識を高めることができた。9年間の学びの積み上げにつながる。

【課題】

・教職員構成が変わっても今年度の防災教育を継続・発展していけるよう、避難訓練に関する資料や事後学習についての指導のあり方、年間計画等を整理し、確実に引き継ぎを行えるようにしたい。

・さらに充実した避難訓練となるよう、今後は、訓練を行う場面を清掃の時間や業前活動の時間等、まだ実施していない時間で行っていきたい。また、保護者や地域の方が来校しているとき等にも実施し、地域との連携もさらに図っていきたい。

・4 年生社会科と総合的な学習の時間の年間計画を見直し、関連付けしたり、統合・削減したりして、横断的・合科的な学習となるようにしたい。